

みなさんは、支援教育コーディネーター（文部科学省では「特別支援教育コーディネーター」をご存じですか。支援教育コーディネーターとは、小・中学校に位置付けられた校務分掌（学校内における教職員の分担）です。文部科学省によると、小・中学校の支援教育コーディネーターの具体的な役割として、学校内の関係者や関係機関との連携・調整や、保護者に対する学校の窓口として機能することが期待されています。市においても、全小・中学校に支援教育コーディネーターを位置づけ、学校内の協力体制の構築や、関係機関との連携、保護者からの教育相談の窓口としての役割を担っています。

専門家との連携の一つとして、学校巡回相談事業を実施しています。発達相談員、臨床心理士などの専門家を学校支援アドバイザーとして位置づけ、授業中の子どもの様子を観察してもらい、教職員および保護者に対し具体的な指導や支援方法を相談・助言します。

他にも府が実施する支援教育地域支援整備事業の一環として、府立聴覚支援学校、視覚支援学校、肢体不自由支援学校、知的障がい支援学校の教員による専門的な教育相談を受けることもできます。どちらも対象は全ての児童生徒となっています。

子どもの発達のことや家庭・学校での支援方法でお困りのことなどがありましたら、専門家による教育相談を活用してください。その際は担任または支援教育コーディネーターにお声かけください。

家庭と学校、その他、関係機関が連携し、よりよい支援方法を一緒に考えていきましょう。

支援教育に関する教育相談について

いずみさの教育

NOW
今

問合先
学校教育課



学校園紹介



確かな学びを育む学校づくり ～新池中学校～

新池中学校は昨年度に引き続き、大阪府教育委員会より「確かな学びを育む学校づくり推進事業」の事業対象校の指定を受けています。「すべての生徒が、わかったら楽しい、できたらうれしいを実感できる授業をめざして」をテーマに日々、授業改革・改善に取り組んでいます。



授業での約束ごととして、「めあての提示」「学びのスケジュールの提示」「対話のある活動」「ふりかえりの実施」の4点を柱に取組を進めています。子どもたちが学習の見通しをもち、目的意識をもって授業に臨むことをねらいとしています。どの授業でも子どもたちのいきいきとした姿を見ることができ、活動での対話を通して、楽しみながら学んでいます。

また、協働しながら学習内容を深めていくことで、子どもたち同士がつながり、豊かなコミュニケーションが実現し、人間関係が



より良いものになっています。「Challenge & Create (チャレンジアンドクリエイト)」を合言葉に、子どもたちにとっても教員にとっても、成長できる学校をめざし、取組を進めています。

第三小学校の取組紹介 ～第三小学校～

【平和学習】

昨年度（平成30年度）より、夏に広島県から「被爆体験伝承者」の人に来校いただき、児童全員に被爆体験の伝承をしていただいています。終戦から74年、被爆体験者の高齢化がすすみ、語り部の活動に支障がでてきているという現状もうかがいしましたが、次世代の人が語り継いでいく話をきくことができ、幸いでした。多くの犠牲のもとに今の平和があることを知り、大切に受け継ごうという気持ちを持ってもらいたいです。



【友好交流】

本校では、特産品協定締結先の1つである高知県宿毛市のみなさんから「文旦」という大きな柑橘系の実がなる苗木を植樹していただきました。植樹から2年目の今夏、初めて実がなり、8月2日には宿毛市長が2年ぶりに来校されました。また、9月には文旦農家の人にも来校していただき、今後の世話の仕方について教えていただきました。しかし、残念ながら初めての結実から2～3年分は食べられないそうです。



【タブレット学習】

本校の特色の1つであるICT学習。各教室で有効と考えられる場面では、タブレットを使用している学習がすすんでいます。子どもたちは自分専用の端末を慣れた操作で使っています。

